

トピックス

『描くことは生きること』
新潟病院に「佐藤伸夫美術館」開館

新潟病院 療育指導室長 高橋 真喜彦

～伊豆からやってきました。新館の4病棟に入院して4日目になります。病室から海と緑と空が見えます。心が和みます。佐藤画伯の美術館が病院内にあることを知り、新潟病院はなんて素敵なんだろうと、絵の大好きな私はわくわくして美術館に車椅子も軽くやってきました。～（患者さんの感想文より）

平成26年7月1日に新病棟“こどもとおとなのための医療センター”が開棟いたしました。新病棟への移行によって空いた旧病棟のリニューアルプロジェクトとして9月13日に「佐藤伸夫美術館」がオープンしました。

佐藤伸夫さんは、1950年に新潟県柏崎市鯨波に生まれました。2歳で脊髄性筋萎縮症と診断され、地元の中学校を卒業後、15歳で下志津病院筋ジス病棟へ入院、21歳で退院し柏崎に戻り、新潟病院への通院が始まりました。24歳の時に洋画家、室屋薫道氏と出会い、「描くことは生きること」と絵筆を取り続けてきました。この間、市展、県展での受賞の他、各地で個展を開催、テレビ・ラジオにも出演しました。現在は、文芸同人誌「北方文学」に表紙絵とカット

を提供しています。

澄みきった青空の柏崎、平成26年9月13日に「佐藤伸夫美術館」開館式典が行われました。

初めに富沢院長より、佐藤伸夫さんについて、その時々のお出来事や当時作製された作品をスクリーンに写しながら紹介がおこなわれました。柏崎直撃の中越沖地震や東日本大震災等の大きな出来事の画像や各年代の絵画の解説により、佐藤さんの生い立ちから、今日までがよくわかりました。

佐藤さんご本人の挨拶では、「普通、美術館



美術館紹介



富沢院長佐藤氏紹介



富沢院長挨拶



佐藤伸夫氏挨拶



テープカット



川井先生講演

というと、既に亡くなっている方が多いのですが、私はまだ生きています。これからも絵を描き続けます」ということばが印象的でした。

来賓として、東埼玉病院 川井充院長先生、長年デイケア外来で佐藤さんを診てきた、現阿賀野病院理事長 近藤浩先生、日本筋ジストロフィー協会副理事長 矢澤健司様よりご挨拶をいただきました。

式典後、美術館のテープカットが行われ、出席者による絵画鑑賞会となりました。県や市の医療、福祉関係者、佐藤さんの絵の関係者や、デイサービスに通っている仲間の皆様、筋ジストロフィー協会新潟県支部の皆様他、大勢の方々が鑑賞いたしました。

佐藤さんと富沢院長はマスコミの取材に追われていたようです。

絵画鑑賞会後の記念講演会では、東埼玉病院院長 川井充先生より、「筋ジストロフィー医療

のこれまでとこれから、治らない病気にどうとりくむか」、佐藤伸夫さんより「今なにがしたいか」をお話いただきました。

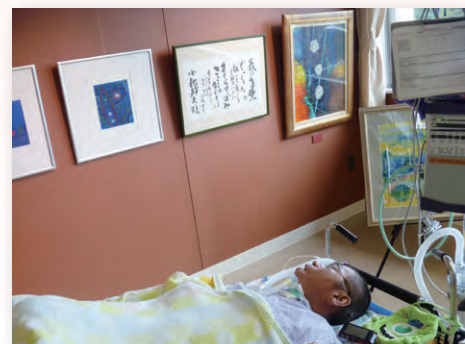
美術館開館の約1ヶ月後、10月9日には、佐藤さん自身の解説による、入院患者さんを対象とした絵画鑑賞会を開催しました。今後もこのような会を続けていく予定です。

美術館の開館時間は、平日9時～17時で、入場無料です。土日祝日は休館です。

～〈青〉の色がなんて美しいのでしょうか！！伊豆の地で海を見て育ち海が大好きです。画伯もきっと海がお好きなのですね。どの絵にも元気をくれるやさしさ、生命力が感じられました。大自然からパワーを、芸術からパワーを、今日も一日、幸せ感謝して過ごせます。よい時をありがとうございました。～（患者さんの感想文より）



佐藤さん解説鑑賞会



患者さん絵画鑑賞